会派間確認事項様式②

出張報告書

令和　2年　2月10日

市議会議長　米田貴志　様

会　派　名　次世代政策会議

代表者氏名　河合馨（署名もしくは記名押印）

下記のとおり報告します。

記

1　目　　的　①石川県小松市：学力向上の取り組みと特色ある教育について

②石川県金沢市：金沢型学校教育モデルについて

2　出　張　先　①石川県小松市

②石川県金沢市

3　出張期間　令和２年１月２７日～令和２年１月２８日

4　出張者氏名　河合馨・稲田悦治・雪本清浩・京西且哲

井舎英生・西田武史

5　てん末報告　別紙通り

次世代政策会議先進市視察レポート

視察先	小松市	テーマ	学力向上の取り組みと特色ある教育について
日　時	令和２年１月 27 日（月）14 時 00 分 ～ 15 時 30 分		

市政の課題の解決に向けて、参考になると思われることと考察について

板津中学校について（校長先生の学校説明）

○学校は、各学年３クラス（１クラス約 30 名）、全校生徒数約 270～280 名。

○以前は、生徒の校内喫煙や屋上から自転車を落とす等の困難校であった。生徒指導に苦労すれば当然学力も上がらなかったが、今では良くなり、市内 10 中学校の中でも３～４番になっている。

○４代前校長の時から、小中連携（小学校３、中学校１）を始めた。中学校で良くならないのは、小学校でも課題があると考えて小中連携して課題解決を行って来た。それ以来、今でも板津中学校区小中連携「年間計画」により連携内容を充実させている。

○公開授業研究会や小６と中学生による「板津サミット」を開催、生徒自らで共通の課題解決ルール作りを行っている。

○朝学習：主体性を磨く「朝の取組」8:10～8:25 で①自己課題学習②図書館読書③プリント学習④質問教室⑤ＡＬＴの先生との英会話等を学年毎に設置している学習室で行っている。

○7:00 から学校オープンしているので、希望する生徒は、学習室で勉強（高校受験前の勉強等）を主体的に行っている。

○板津無言清掃：数年前に永平寺中学校から体験的に学び、生徒が発案し取り組んでいる「水拭き清掃」であり新しい伝統を作ろうとしている。

○不登校の生徒が数時間でも登校しだすと先生方がその関りに悩むことがあったが、教育委員会の支援もあり、若い先生方が対応力を付けてくれて、生徒も先生との会話を楽しめるようになり投稿継続になった。

○生徒のスキルアップのために先生が研究通信を年 12 回程度発行している。

○図書館司書が、常駐して運営してくれ恵まれた環境にある。司書さんが「図書館だより」を発行、昼休みは生徒の人気の場所になっている。

○学期毎に学校から多読生徒を表彰している。本を読んで欲しいから。

○板津地区健全育成会議が、ポスター・標語コンクールを開催し、最優秀作品を全世帯に配布公表している。
○小中連携の取組みにより「困難校」を克服して今日に至っている。
○「困難校」克服の鍵は、教師全員で生徒に関わる努力を続けたこと。
○生徒に真正面から取組んできた結果が、今日の学校になっている。校長や教師は、５時からが仕事である。
○全体の前で、生徒を褒める。先生も褒める。
○生徒の心が安定すれば、必ず成績は良くなる。

教育委員会からの説明（学校教育課長の説明）
○小松市は、23 小学校、10 中学校である。
○義務教育学校（９年間）を山手の小さな学校（１学年１クラス）で実施している。小中連携を実施して経験してから義務教育学校を作るのが良いのではないか。
○ＩＣＴ教育の取組は、ずっと以前からＬａｐＴｏｐ型ＰＣを１人１台が、防衛省からの補助金で導入されている。
○市の一般会計に対する教育費の割合は、約 15%、小学校費は約１％、中学校費は約 0.6％である。
○市内でも、この中学校は、たいへん綺麗で良い学校である。
○先生の数を増やして欲しい。（校長先生の談）

小松市の概要
【人口・世帯】108,460 人／43,935 世帯（10/1 現在）
【面　　積】371.05km^2

次世代政策会議先進市視察レポート

視察先	金沢市	テーマ	金沢型学校教育モデルについて
日　時	令和２年１月 28 日（火）10 時 00 分 ～ 11 時 40 分		

市政の課題の解決に向けて、参考になると思われることと考察について

長年低迷している本市の学力の向上を目指して、全国学力調査において優秀な成績をあげている金沢市を訪問し、教育施策について学んだ。現行の金沢市教育行政大綱は、平成 27 年１月に【学校教育振興基本計画】が、平成 27 年７月には「学習プログラム」「学習スタイル」「小中一貫教育」から成る**【金沢型学校教育モデル】**が策定され、同年 10 月に制定された。そこには、『めざすべき金沢の子ども像』『金沢市学校教育振興基本計画の基本的方向性』や『金沢子どもかがやき宣言』が織り込まれている。

【金沢型学校教育モデル】は、大きく分けて**「金沢型学習プログラム」**（何を学ぶか）と**「金沢型学習スタイル」**（どのように学ぶか）に分けられ、それらを包括的に学びの土台とする為に**「金沢型小中一貫教育」**を実施している。その上で、家庭や地域と協力・連携して教育を進めている。

「金沢型学習プログラム」では、次の３つを実施している。

１．**金沢ベーシックカリキュラム**
金沢市立全小・中学校の基準となる知・徳・体の調和のとれた特色ある教育課程

２．**金沢ふるさと学習**
金沢のもつ多様な素材や人材を活用し、金沢について学び、考え、かかわり、広めることを通して、金沢のまちに愛着と誇りを持ち、まちづくりの担い手を育むことを目指す学習

３．**金沢「絆」活動**
「金沢子どもかがやき宣言」に基づく実践を通して、人と人との絆を大切にしながら、心と力を磨く児童会・生徒会活動

「金沢型学習スタイル」では、自分でみんなで考える学習スタイルを重視している。

１．課題の発見と解決に向けた主体的・協働的な学習の重視
２．分かる喜び・できる喜びのある学習の重視
３．好ましい人間関係に基づく学習の重視

なお、ここで特筆すべきところは、(児童生徒・保護者向け)と(教員向け)の指導資料を、学習目的を明確にして作成している。

「金沢型小中一貫教育」では、９年間を見通した教育活動を展開するために、全ての中学校区において基盤となる共通の取組を実施している。

１．小中学校の関連を明記した教育課程の作成
２．小中学校教員相互の授業参観による授業改善
３．児童生徒交流の実施
４．全教職員による推進体制の構築
５．家庭や地域への発信

以上、金沢型学校教育モデルについて述べたが、これ以上に次のような実践プログラムが実施されている。

・指導主事等による学校訪問
・金沢ベーシックカリキュラム実践推進事業
・小中学校の公開研究発表会や全市一斉公開研究日の設定
・金沢型学校教育モデル指導事例集の作成
・小中学校の若手教員による主体的・対話的で深い実践研究
・金沢型学習スタイル映像資料の作成と活用

金沢市の教育モデルに触れて感じたことは、郷土愛を育む学習を筆頭に、何を学ぶか(内容)、どのように学ぶか(方法)を指導資料も作成し、細部に至り教育を実践している。小中一貫教育では、グランドデザインを作成し、９年間を見通した教育活動を展開する為に、全ての中学校区において行う共通の取組を実施している。その上で、それらの取組を実践していくプログラムを忠実に実行しているところが素晴らしいと感じた。本市の場合も、施策としては文章化されているかもしれないが、金沢市のようには全然実行されていないのが現状である。本市には、チェック機能や改善機能が皆無と言っても過言ではない。

視察の最後に、教育の立て直しをまず一歩踏み出すには何をすれば良いのかを訪ねた。３点を挙げて頂いたので、今後教育委員会に提案するかを協議したい。１．基本は授業にある。２．生徒指導に努める。３．学力向上対策係を設置し、状況を分析し学校にアドバイスをする。

金沢市の概要

【人口・世帯】452,289 人／207,693 世帯（10/1 現在）
【面　　積】468.64km^2